

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき (A棟・B棟)		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94-19	0948-42-7578	
自己評価作成日	平成25年06月22日	評価結果確定日	平成25年08月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年08月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地にデーサービス等と併設して建てられている。地域の皆様に安心と信頼を得られるホームを目指している。入居者の方々に元気と笑顔を引き出すために頑張っている。特に体を動かしたりレクリエーションを楽しんで頂く工夫をしている。ボランティアの方々に訪問して頂いたり、外出の機会を多く取り入れて季節ごとの移ろいを楽しんでいただいている。自宅菜園などでも収穫を共に楽しんでいる。看取りの体制も整いご家族に安心して頂いている。推進会議では活発な意見などを大いに頂き活用するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊厳」というキーワードで、利用者一人ひとりを優しく包みこむ介護は、利用者の心身機能の維持を目指し、下肢筋力の強化に励み、利用者の頑張りや紙オムツから、布パンツに変更する等、利用者の自信回復に繋がる支援に取り組んでいる。利用者の重度化で職員の負担が増えているが、職員一人ひとりの笑顔や、穏やかな言葉かけと、職員の質の高いチーム介護で、利用者の心を開き信頼関係を築き、家族の評価は高いものがある。毎週往診の協力医療機関と、かかりつけ医を活用し、看護師の資格を持つ管理者の的確な判断で、医療、介護の連携が図られている。また、職員の介護の知識と技術を活用し、地域の介護相談や独居の方の安否確認等、地域密着型事業所として、積極的な活動を目指している「グループホーム けやき」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者第一の基本理念のもとに常に意識することを職員に伝え実践に繋がるようにしている。合同会議の時職員で唱和して意識を新たにしている。	家庭的な環境と、尊厳のある生活の提供を理念の柱とし、職員で唱和を行い、常に理念を意識しながら心にゆとりを持ち、人を思う心と利用者への、尊敬の念を忘れない介護サービスを実践している。また、「このホームで生活できて、長生きして良かった」と心から思ってもらえるホームを目指し、職員が一丸となって日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会との交流を持ち、広報等のやり取りしている。行事の時などには、お願いをしている。	町内会や婦人会との交流を持ち、ホームの七夕会や敬老会、秋祭り、クリスマス会、餅つき等に、家族や地域の方の多くの参加があり、ボランティアの訪問や小学2年生の職場見学、中・高生の体験学習の受け入れ等、活発な地域交流が始まっている。また、保育園児との交流は、利用者の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	嘉麻市の小学生、中学生などの体験学習などを受け入れ交流をしている。また、様々なボランティアの方々をお願いしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の会議で出た意見を反映させている。	会議は、家族、自治会会長、民生委員、元婦人会会長、行政職員が参加し、2ヶ月毎に開催している。ホームの入居状況や活動を報告し、参加委員からは情報提供や質問、要望等出され、活発な意見交換の場となっている。地域の行事やボランティアの情報提供、七夕会で利用者に着る浴衣が不足している実情を話し、提供していただく等、充実した会議である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月地域包括センターにて開催される会議に参加して情報やサービスの取り組みなどについて協力している。	地域包括支援センターで毎月開催される嘉麻市のグループホーム協議会の会議に参加し、情報や意見交換を行っている。また、運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの実情を理解してもらい、連携を図っている。介護相談員の受け入れを行い、介護サービスの向上に繋げている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で身体拘束について議論し、「なぜいけないのか」勉強会を開き共通の意識を持つようにしている。	定期的に身体拘束委員会を開催し、スピーチロックを含めた身体拘束が利用者にも与える影響について検討している。利用者が、安心して、自由に暮らせる支援の在り方を、職員全員が理解し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は施錠せず、職員の見守りと、併設事業所の協力で、利用者の安全の確保に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に勉強会をして精神的、身体的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度など資料などを利用して理解するようにしている。また、それらを活用する方があれば利用して頂くように説明している。	現在制度を活用している利用者はいない。権利擁護に関する制度についての資料を用意し、外部や内部の研修に職員が参加して、制度の理解に努めている。利用者や家族が制度を必要とする時には説明し、申請手続きの方法や関係機関の窓口を紹介する等、支援体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすく説明している。十分に納得なさってから同意を得るようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や個別面談時に意見や要望を聞くようにしている。嘉麻市からの介護相談委員の方に訪問して頂き運営の反映につながるようにしている。	玄関に意見箱を設置し、家族の面会時に努めて声掛けし、意見や要望を聴き取っている。面会の機会の少ない家族に対しては、「けやき便り」と利用者の健康記録を毎月届け、電話で家族の要望を聞いている。また、3ヶ月毎に家族会を開催し、家族とホーム、家族同士の繋がりを深めると共に、家族の思いを聴きとり、出来るだけホームの運営に反映させるように努力している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全施設の会議にて意見の交換を行い意見の反映に繋がるようにしている。	毎月の法人会議や2ヶ月毎のホームの合同会議、ユニット会議で、職員の意見を聴き取り、ホーム運営に反映させている。会議で、職員が本音で話せる貴重な機会と捉え、活発な意見交換が行われ、出された意見は迅速に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の長所を生かし優れた面を發揮し活躍してやりがいを持てるようにしている。休みも希望を取り入れ次のやる気につながるように環境を整えている。頑張った方にはボーナス時に報奨金などの加算がある。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては男女の差別はない。各自の能力を最大に發揮して頂くように指導している。	職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、介護に関する考えや人柄を優先している。採用後は、研修を実施し、職員のスキルアップに繋げ、資格取得のためのバックアップ体制も整えている。職員のロッカーや休憩室を確保し、希望休や勤務体制についても、職員の希望を柔軟に取り入れ、働きやすい職場環境に取り組んでいる。また、絵や創作、料理、園芸、歌、レク等、職員一人ひとりがその能力を發揮して自己実現しながら生き生きと取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	その人らしさを大切に尊厳が失われていないか？常に意見交換し人権尊重に努めている。勉強をしたい意欲のある方には自己実現しやすいように協力体制にある。	法人会議やミーティング時に人権研修を実施し、理念にも掲げている「尊厳のある生活」の実現のために職員間で話し合い、実践に向けて取り組んでいる。利用者への接し方や言葉遣いについて常日頃から意識するよう心掛け、利用者が安心して生活が送れるよう、利用者の意向を第一に考えた介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議時に内部勉強会を開いたり、介護講座の研修に参加して介護技術の向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嘉麻市グループホームのケアマネ研修会に毎月参加して、意見交換や困難事例など相談してサービスの向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと摂り家族からの意見を伺い本人の気持ちに寄り添える状況を考慮しながら信頼関係を早く築けるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の信頼を得るためにも、しっかりと耳を傾け細かく情報を共有しながら関係作りに努めている。必要と思われる事は協力をお願いしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報で何が必要かを見極め、サービスにはどのような支援があるか、情報を集め支援している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態をしっかりと確認しながら本人のもっている能力を生かせるように家庭的な雰囲気大切に共に支え合う日々を送るようにしている。畑の事を教えて頂いたり、料理の方法など教わっている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や外出などの時に協力をお願いして家族の方々と共に本人を支えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理髪店など、馴染みの店を利用して支援を断ち切らないようにしている。本人が望まれる事や一時帰宅など家族と相談して協力を得るようにしている。	利用者の友人、知人、親戚等が訪ねて来られ、職員も馴染みになるよう心掛けている。馴染みの顔を見ると利用者の表情が和み、日頃言葉の出ない利用者から、「そうよ」「いいね」等の言葉が出てくる等、嬉しい変化が見られる。週に1回自宅へ帰られる等、家族の協力も得ている。また、入居後の利用者同士の支え合う関係や、気の合う馴染みの関係も大切にしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で共に出来る事や、レクリエーションなどで共に楽しみ、お互いを認め支えるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去なさった方などのお見舞いに行ったり家族と連絡とったりして、関係を断ち切らないようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴や個性を大切に思い思いの生活が送れるように支援している。日常会話や行動で把握し意向に添えるように会議の時などに検討している。	職員は、利用者信頼関係を築き、生活歴や性格を尊重しながら自発的な言葉を待つ等して、意向の把握に努めている。全身疥癬の利用者のオムツ外しに取り組み、毎日の入浴により症状が改善し、笑顔が見られるようになり、言葉が出るようになった。利用者一人ひとりの気持ちに寄り添う職員の姿勢が、利用者の気持ちを動かし、思いや意向の把握に繋げている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり摂り家族からの意見を伺い本人の気持ちに寄り添える状況を考慮しながら信頼関係を早く気付けるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の様子を日誌に記載し、職員同士が把握できるようにしている。大切なことや、共有しなければならないことは申し送りに記載している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをするために家族、担当職員などの意見を摂り現状に合ったプランができるようにしている。体調については、主治医や訪問看護師の意見を聞くようにしている。	利用者本位の介護計画を作るために、職員は日々の関わりの中から利用者の本音を聴き出し、家族の面会時に合わせて担当者会議を開き、家族の要望を聴いて、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、主治医や訪問看護師、職員と話し合い、家族と連携を密に取りながら、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を個人記録にて把握し計画の見直しを行なっている。毎月ミーティングを開き意見の交換を行いながら良いと思われる事を実践につなげている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ細目に対応できるように支援している。本人の望まれることがサービスにつながるようにと常に考えている色々な方に協力を得ている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との連携でボランティアの方々や推進会議の皆さんに協力を得ながら安全第一に楽しみごとを支援している。家族の方にも、お願いすることがある。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの方に遭った本人が信頼している病院との連携をとりながら支援している。	「慣れた所がいい」「病院を替えたくない」という利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。重度化に伴い、週1回の往診と夜間対応可能な協力医療機関を選択する利用者が増えている。利用者の健康管理は、主治医と、週1回の訪問看護、介護職員の連携による早期発見、早期対応で、安心できる医療連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護との連携により、適切な対応アドバイスを受け早期発見に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに行き、本人が不安を持たないように支援している。体調などを看護師に聞いたり、担当医に退院の相談したりして情報交換に努めて関係を絶たないようにしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りについての説明はしている。その時々々の状態や家族の意見を聞きながら、望まれる方向をしっかりと話し合うようにしている。相談はいつでも受け入れている。	契約時に、利用者や家族に、重度化や終末期に向けた支援体制について説明している。「けやきで最後まで」と望まれる方をこれまで何名か看取った経験があり、最初は不安で一杯であったが、家族の感謝の気持ちに触れた時に、職員の大きな励みになった。今後も、本人、家族の希望を確認しながら、方針を共有し、家族と共に終末期に向けた支援に取り組んでいきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成しいつでも対応できるように定期的に勉強会や訓練を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い全職員が身に付くようにしている。地域の消防団にも協力して頂くように支援要請できる体制になるようにしている。	年2回火災に備えた昼夜を想定した避難訓練を、消防署の協力と自主防災組織で実施し、避難経路、非常口、避難場所、消火設備の確認と、隣接事業所との協力で、利用者を安全に避難場所に誘導できる体制を確保している。運営推進会議の参加委員や家族会の協力を得て、訓練を実施している。2名の管理者が5分以内で駆けつける事が出来るのも心強い。非常食、飲料水、卓上コンロ等の備蓄もある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念第一に尊厳の念を持ち対応するようにしている。本人の思いやプライドを大切に出来るように職員で話し合っている。	理念にある「尊厳を守る」を大切に、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない優しい言葉かけや、さりげない見守りで、日常の支援に取り組んでいる。入居年数の長い利用者が多く、職員の離職もないので、なれ合いになる事に注意し、適度な距離を保ちながら、信頼関係を築いている。また、利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務については、管理者が常に注意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情を見ながらつぶやかれた言葉を聞き逃さないようにして、自己決定できるような声かけ対応している。本人の思いをいち早く理解できるように心配りしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望まれるままに生活できるように目配り気配りをしている。本人から希望が聞き出せるように常にコミュニケーションをとっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に一日のメリハリをつけておしゃれをなさることを楽しめるように支援している。七夕祭りの時は皆様に浴衣を着て頂くようにも支援している。外出の時はお化粧して頂きおしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下ごしらえをしたり、季節の(梅干しや、ラッキョウ漬けなど共に行っている。お膳などを下げたりなどして頂いている。	ゴーヤや南瓜、さつまいも、玉葱、無花果等、ホームの畑で採れる沢山の野菜や果物をふんだんに使い、利用者の嗜好を採り入れながら、職員が調理する美味しい食事は、利用者の元気の源であり、入居年数の長い利用者が、多い理由と考えられる。頂いた梅を使つての梅干し、梅酒、梅ジュース作りや、らっきょう漬けに挑戦したり、道の駅やショッピングセンターでの外食等、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェックしている。入居者の誤嚥や咀嚼に合わせてキザミ食やミキサー食を提供している。なにより、食事が楽しみになるように盛り付けなどにも工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ介助している。必要に応じて訪問歯科の利用もして頂き、食事が美味しく食べられるように支援している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合ったトイレ介助を行い日中は出来るだけトイレで排泄なさるようにしている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや、さりげない誘導で、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。紙おむつ使用の状態が入居された方も、布パンツに替わられ、早めの声掛けを行う事で失敗も少なくなっている。また、夜間は、定期的なトイレ誘導と、ポータブルトイレを居室で使用し、オムツの使用量の軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物で工夫したり毎日の運動で便秘にならないようにしている。医師との連携で体調に合った緩下剤を使用している方もある。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入る曜日を決めてはいるが、体調に合わせて入浴できるように個々に合った支援体制である。	基本的には週3回、曜日を決めての入浴支援であるが、利用者の希望を尊重し、毎日入ることも可能である。「週に1回でよか」と言われる利用者には無理強いせず、本人の気持ちを大事にしている。浴室には、大、小の浴槽があり、利用者の希望や状態により使い分けている。ストレッチャーを利用しての入浴も実施し、利用者一人ひとりに合わせた入浴の支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や入眠時間はその方に応じて対応。ゆっくりと好きな時に休まれるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋を備えいつでも確認できるようにしている。個人入るにて病気や内服が分かるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみごとと趣味などを生かしながらレクリエーションなどで気分転換をはかり笑顔のある日々を送られるように支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力を得ながら外へ行く機会を持つようにしている。季節ごとの移ろいなども肌で感じて頂けるように外出している。	利用者の、重度化が進み、全員での外出は難しくなっているが、家族の協力を得て、季節毎の花見やドライブ、地域の祭りや行事に出かけている。天気の良い日は、広い敷地内を散歩したり、畑の草取りや手入れ等で、利用者と職員が共に過ごし、生きがいのある暮らしの支援に繋げている。また、道の駅での外食や大衆劇場での観劇、英彦山への参拝等、生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物時に好きな物が買いたい方にはお金を使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話していただいている。手紙を書ける方は少なくなったが、年賀状くらいは書いていただくようにしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁掛けの絵を展示したり、季節の花を活けて頂いたり、して共に過ごしやすいように工夫している。音、においなどは不快にならないように気をつけている。野菜や花を植えて家庭的な雰囲気をごささないようにしている。	広い敷地には、野菜畑や花壇が整備され、利用者の百歳の記念に植樹された無花果の大きな実がなっている。玄関に入ると、利用者職員による素晴らしい作品が飾られ、室内には季節の花が活けられ、利用者手作りの貼り絵や布を使った暖簾、季節の絵等、手作りの物をたくさん掲示して家庭的な温かい雰囲気を演出し、家族も気軽に立ち寄る事の出来る居心地の良い共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所に長椅子などを置き一人になりたい空間も大切にしている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より馴染みの品を持ってきて頂いたり、好みの物でお部屋を飾ったりして、居心地良い自分らしさの部屋で、あるように工夫している。	利用者の大切にしている物や馴染みの家具、ベッド、仏壇、家族の写真等を、家族と相談して持ち込んでもらい、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせる居室になるように工夫している。また、室内の清掃に職員が取り組み、清潔感のある居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下も明るく広く歩行時は手すりを使用できるようになっている。共通の場所には出れ煮もわかるように大きく目印などを付けている。		